

昌壽院 おてらだより 第12号

曹洞宗 昌壽院
〒621-0814
亀岡市三宅町 95
TEL 0771-22-235
otera@shojuin.jp

令和7年度 「梅花 奉詠のたび」

令和7年5月2日、二年ぶりに「梅花・奉詠のたび」を開催し、三田市の永澤寺（よたくじ）と丹波市の白毫寺へ参拝しました。永澤寺は南北朝時代創建の禅刹で、由緒ある勅使門や壮麗な伽藍が印象的でした。講員一同で本堂にてご詠歌を奉詠し、「花まつり」にちなんでご法話を頂戴しました。門前の「花のじゅうたん」では満開の芝桜が広がり、心む風景に感動しました。



永澤寺 渡邊老師と記念撮影



午後には「九尺ふじ」で知られる白毫寺を拝登訪問。見事な藤棚の下、藤の香りに包まれながら散策を楽しみましたが、途中から豪雨に見舞われ、名残を惜しみつつ帰路につきました。

ご詠歌と季節の花を通じて、心豊かな一日を過ごすことができました。

梵音清浄 安穏和楽

「やわらぎの鐘」完成

このたび、境内墓地にある子安地藏・永代供養墓に「やわらぎの鐘」を建立しました。令和元年、本堂前にマニ車を設置し、皆さんに親しんでいただいています。

同じようにお参りの方が鳴らすことのできる「体験型」の鐘を設置を考えていたところ、宮下雅代さんのご寄進により実現しました。深く感謝申し上げます。

鐘の音は「梵音（ぼんのん）」とも表現します。仏様の声という意味です。

今年は終戦八〇年にあたります。

心静かに鐘を打ち鳴らし、自らの心を清らかにするとともに、梵音を響かせ、平和と人々の無事安穏を願っていただきたいと思っています。

「カーン・カーン・カーン」と三度ほど打ち鳴らすと、清らかな音が響きます。

どうぞお参りの時に、鳴らしていただき、実際にその音を耳にして下さい。



小さい子も鳴らしやすいように少し低くしてあります



『アンパンマン』に託された思い

現在放送中のNHK連続テレビ小説『あなぱん』は、アンパンマンの生みの親・やなせたかしさんとそのご夫人の歩みを描いた作品です。アンパンマンは、あなぱんでできた顔を与えて人を助けるヒーローです。私はその姿が、お地藏さまに重なるように思えてなりません。丸い顔、赤いマント、何より子どもたちの味方であるところは、まさに地藏菩薩のようです。

やなせさんは従軍中、極度の空腹を経験し、戦後、それまで信じていた「正義」が一転する現実と直面しました。そうした体験から、「本当の正義とは、お腹をすかせた人に一片のパンを与えることだ」という信念を持つようになったそうです。

今年には終戦から80年。お寺の過去帳にも多くの戦没者の名が記されています。

戦争を体験した方々が少なくなる中、記憶の風化が進んでいます。一方で、世界は自国第一主義が広がっている状況。

「平和ボケ」と揶揄されることもありますが、平和を願い祈ることは無意味ではありません。その心なくして、平和は築けないと思うのです。

お釈迦さまはこう説かれました。

「すべての者は暴力をおそれ、命を惜しむ。わが身にひきくらべて、殺してはならない。」

殺させてはならない。――

この言葉を胸に、あらためて「平和」について考えてみたいと思います。(住職 合掌)

令和7年度 京都府宗務所

檀信徒研修会(日泰寺)参加

令和7年6月10日、京都府宗務所主催の檀信徒研修会が、名古屋市の覚王山 日泰寺で開催されました。

昌寿院からは住職・近藤 護持会長ご夫妻と寺族の計4名が参加しました。

日泰寺はお釈迦さまのご遺骨(仏舍利)を奉安する日本唯一の超宗派寺院で、現在19宗派が交代で住職をつとめています。

本堂で仏祖諷経が営まれ、その後の法話では「三帰依文」の意味をやさしく説かれ、日々の生活と仏教の教えを重ね合わせながら心の持ち方を学びました。

続いて奉安塔を参拝し、明治時代にタイ王国より寄贈された仏舎利の前で焼香をさせていただきました。

貴重な学びとともに、世界に広がる仏縁を感じる一日となりました。



瑩山紹瑾禅師七〇〇回大遠忌

護持会役員が表彰を受賞



【受賞者】

- ・近藤 正
- ・青木正一郎
- ・並河和夫
- ・福井 啓二

(敬称略)

昨年の瑩山禅師七〇〇回大遠忌にあたり、昌寿院 護持会役員の長年の尽力に対し、管長猥下より表彰状が贈られました。まことにおめでとうございます。

皆さまの変わらぬご奉仕とご厚情に、心より感謝申し上げます。今後とも、よろしくお願い申し上げます。

『梅花 御詠歌の会』



毎月第2木曜日
午後1時半〜3時半
楽しい会です。
ぜひ一緒に！



↑ 昌寿院ウェブサイト <https://shojuin.jp>